

2023.03.02.木曜礼拝「感わされ、信じる」

哀歌 2 章&聖餐式

JD ファラグ牧師

一緒に祈りましょう。天のお父さま、あなたの御前にどうやって出られるでしょう。涙なしにあなたの御座の前に出られるでしょうか。あなたは本当に良いお方だからです。私たちそれぞれの人生にあなたがして下さったすべてに感謝します。 私たちが困難な状況に直面したとき、主よ、イスラエルの民のようにならないように、私たちをどのように導いてくださったかを一つ一つ思い出せるようにと祈ります。あなたが私たちをどのように養い、どのように教え、どのように訓練されてきたのかを。そのことを保ち続けさせてください。あなたの御言葉が私たちの心と思いを造り変えて下さることに感謝します。

毎週日曜日、毎週木曜日、主が私たちを祝福して下さったこの場所に来て、この時間を無駄にせず、同じ人としてここを去ることがないように祈ります。私たちに語り下さい。私たちがキリストの兄弟姉妹として共に過ごせるこの時間に本当に感謝します。この教えに感謝します。主よ、私たちの牧師に感謝します。この教会の指導者を導いてください。敵の攻撃から私たちを守り続けてください。もう一度、この時間に本当に感謝します。主よ、すべての言動において、あなたが栄光を受けられますように。あなたの偉大な御名、唯一のイエスの御名によって祈ります。アーメン。アーメン。それでは。こんばんは。来て下さり嬉しいです。オンラインの皆さんも歓迎します。聖書の学びの最後に行く、聖餐式のセットをまだお持ちでない方は、今取りに来られると良いでしょう。オンラインの方も、用意しておくとう良いでしょう。その間にお伝えしたいと思います。火曜日夜 7 時に、ここ礼拝堂で祈り会があります。ぜひ、一緒に参加して、一緒に祈ることができればと思います。ぜひカレンダーに印をつけて、ご予約を立ててください。では、哀歌 2 章です。この後、あと 3 章あります。大変で、難しいものです。私は通常、教える予定の章を何度も読み返します。この特定の章については、本当に、書全体に及ぶと思いますが、私はこれ以上我慢できなくなって、閉じてしまいました。ですから、皆さん我慢してください。私は最善を尽くします。乗り越えましょう。ここには、聖霊がこの章から引き出され、私たちに働きかけてくださることがたくさんあります。もしよろしければ一緒に祈りましょう、神にそのことを求めましょう。主よ、感謝します。主よ、あなたの御言葉と、今夜私たちの前にあるこの御言葉の部分に、私たちはとても感謝しています。これは、私たちがこの御言葉を通して聖霊が私たちに働いてくださることを切実に必要とすることを素直に認める箇所の一つです。これは、私たちがこの御言葉を通して聖霊が私たちに働いてくださることを切実に必要とすることを素直に認める箇所の一つです。これは、私たちがこの御言葉を通して聖霊が私たちに働いてくださることを切実に必要とすることを素直に認める箇所の一つです。主よ、私たちはこの章に書かれていることを誤解したくありません。私たちは理解したいです。理解する必要があります。聖霊が私たちに理解を与え、私たちの理解の目を開かせてくださる必要があります。主よ、ここには少し、強烈な部分もありますが、その必要があります。主よ、私たちがこれを読んでいく中で、私たちの心を祝福し、私たちの人生にそれを適用させてください。そして主よ、どうか、私たち多くの者が木曜日の夜、あなたが与えてくださったこの美しい場所に、大きな期待を持ってやってきます。特に、聖餐式を一緒に行うとき、あなたのことを思い出しながら、何度でも行うことができる、非常に深い特権です。私たちはこの場所に、多くのプレッシャー、多くのストレス、忙しさ、多くの問題、試練や困難さえも抱えてきます。しかし、主よ、この時間は確保されていて、これは私たちが互いに、そしてあなたの御言葉の中であなたと一緒に過ごす時間です。ですから、私たちはそれを守っているようなものです。私

私たちはただ、主よ、あなたに集中することができるように、そのすべてを脇に置くことができる恵みを与えてください。あなたにしかお出来にならない方法で、いつも忠実であられるように、私たちの人生にお語り下さい。主よ、お語り下さい。しもべは聞いております。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

それでは。この章を教えるために祈り、準備する中で、ユダに起こったことは、本当は真の預言者エレミヤではなく、偽預言者を信じて惑わされたことが原因だったということが、とても印象に残っています。聖霊は常に忠実にそれを引き出してくださいますが、私が思うに、今夜私たちが読もうとしていることは、生々しくて難しいことですが、起こる必要がなかったことです。ユダが、エレミヤに耳を傾けていたら、私たちの聖書には「哀歌」さえないでしょう。想像するならば。彼らはこれらの偽預言者を信じ、偽預言者に惑わされました。なぜ彼らがそうしたかという、そうしたいと思ったからです。これについて考えてみてください。つまり、彼らは偽預言者たちの人気のあるメッセージを受け取り、信じることを意識的に決断し、そうすることによって、神の真の預言者からの不人気なメッセージを拒絶しました。

この章にあるように、最後の最後まで。これは意図的な選択でした。彼らに弁解の余地はありません。彼らは選択肢がありました。彼らは、これから起こることを預言している、いわば荒野の孤独な声、預言者エレミヤを信じることができました。しかし、彼らは信じないことを選択しました。そのメッセージを聞きたくなかったのを拒否したのです。彼らは何を聞いたかったのでしょうか。滑らかなことだけを聞いたかったのです。

「私たちが聞きたいことを教えてください。」

イザヤとエレミヤが聖霊によって、彼らが「ただ私たちに嘘を言ってください」「私たちはそれが大好きです」とまで言ったと記録しています。彼らは信じたかったので、信じます。エレミヤを信じたくありませんでした。最後まで、偽預言者たちとその人気なメッセージを信じて、欺かれてしまったのです。さて、なぜこれが重要なのでしょうか？ なぜなら、この章に書かれていることは、神がご自身やご自分の意志を私たちに押し付けられないということを理解していなければ、不当で不公平なものに思えるでしょう。別の言い方で言わせてください。神は私たちに自由意志を与えておられます。無理に従わせるようなことはされません。それは、神がどんなお方か、神のご性格やご性質と矛盾します。ですから、神は私たちに自由意志を与えられます。それは私たちの選択、私たちの決断です。神はご自分を強要されませんが、私たちが神に従わず、神を拒絶するとき、私たちは神の御手を強要することができます。私たちがユダのように自分の自由意志を行使して、神の御言葉と神の御心に反抗するとき、神はそれに応えなければなりません。今夜は「神はそうしなければならない」という場面を繰り返し見ることになります。神はただ、そうしなければならない。神はこれをやらないわけにはいかないのです。望んでおられませんが、しなければならないのです。もう一度、どうかこれを見ていく中で、このことを理解してください。というのも、これを見逃し、誤解してしまうと、不当な、不公平な正義を神に課してしまうことになるからです。なぜなら、ここで本当にすぐに醜くなるからです。では、これが今夜の教訓です。私たちにも、たとえ不快で不人気であっても、現代のエレミヤの悲観的な預言を信じるかどうかという選択があります。私はそれを聞きたくありません。教えたくありません。宣告したくありません。真実を言えば、主は私の心をご存じですが、私たちが毎週行っている「聖書預言アップデート」では、1000回死ぬほどです。

ある翻訳では、「主の重荷」と表現されています。良い表現だと思います、それは重荷だからです。それは重い、重荷です。なぜなら、何が起こるかわかっていて、人々に警告するのが役目だからです。不人気

であることはすでに分かっている、それは受け入れられないでしょう。また、他の人たちが、自分の耳が聞きたがっていることを、人々に伝えていることも知っています。対立しているわけです。ある意味、くどい言い方ですが、それに対抗しているようなものです。荒野で一人「これが起こる」と声を上げると、どうなると思いますか？「あ～、君は本当に悲観的だ。」向こうで別の人が、こう言います。「そんなこと起こらないよ」「エレミヤの話は聞くな。エレミヤは本当に悲観的だ。そんなこと起こらないよ。」

最後のユダへの侵攻と攻防戦の最後まで、その預言者たちは、まだ民にこう言っていました。

「たとえあなたがたが捕虜になったとしても、すでに捕虜になった者もいるが、私たちはすぐに戻ってくる。エレミヤの話は聞くな。」

ですから、これは人気なメッセージでした。人々が聞きたいことであり、彼らはそれを信じたかったのです。そうして、それを信じたいがために、真理を拒絶しました。日曜日の預言アップデートでは、第二テサロニケ2章についても少しお話しします。これは、この強い惑わし、欺きについて、こんにち実際に起こっている非常に重要な箇所であり、預言です。人々がその嘘を信じてしまうことは、明白なことです。なぜでしょう？なぜなら、真理を拒絶したからです。繋がっていますか？エレミヤは40数年間、真理を宣べ伝えています。人々は真理を拒絶しました。彼らは真理を拒絶したので、嘘を信じました。まあ、ここでまた切り離しが生じるのですが、簡単にやってしまうからこそ、話をする必要があります。私もその傾向が強いです。私たちは、このような一節から自分自身を切り離し、権利を奪ってしまいます。私たちはそれを「まあ、私はそんなことはしないけど」という旗印のもとに切り捨てます。そんなに早まらないで。そんなに急がないでください。私たちがこれを見ていくなかで、自分も含め、私たち全員が、この点については、聖霊が私たちの心の奥深くまで、自由にアクセスできるようにすることが大切でしょう。私たちは皆、自分の耳が求めているものを聞きたいと思う性質があるからです。

「人気のあるメッセージを聴きたい。」「心地よいメッセージを聴きたい。」さて、これは心地よくなく、人気のないメッセージです。しかし、真理です。ところで、神の真理を拒絶した結果として起こることを避けるために、あなたも、私も、この真理に耳を傾けることをお勧めします。辛く、聞き難いものです。それが真理です。では、これが導入です。ここまで大丈夫ですか？よし、それでは1節。

一哀歌 2:1ー

ああ、主は娘シオンを御怒りの雲でおおい、…

さて、これは非常に詩的で、生々しくもなっていますが、「御怒りの雲」イスラエル人たちは出エジプト記で雲が与えられました。昼は太陽による灼熱から守り、夜は火の雲で彼らを守り、実際に雲が守り、導きました。彼らを導き、温め、守りました。しかし、これは違う雲です。これは重く、暗い雲で、主の重い御手であり、今、彼らを覆っています。

…イスラエルの栄を天から地に投げ落とし、御怒りの日に、ご自分の足台を思い出されなかった。

さて、これは幕屋とそれに続く神殿のことで、現在は破壊されています。

一哀歌 2:2ー

ヤコブのすべての住まいを主は呑み込み、容赦なさらなかった。…

「He has/主がなさった」この二語です。これは、この章を通して、神が明確に、そうしなければならなかったことを明らかにしている多くの箇所のうち最初のものです。神はそうしなければなりません。

…(主は) 憤って娘ユダの要塞を打ちこわし (主は) 地に打ち倒して、(主は) 王国とその首長たちを汚された。

一哀歌 2:3一

(主は) 燃える怒りをもって、イスラエルのすべての角を折り、…

「角」は力と強さを表します。神はそれを切り取られます。

… (主は) 敵の前で右の手を引き戻し、…

止まってください。この意味が分かりますか？ これまでは右手で敵を抑えておられた、ということですよ。そして今、神は御手を引き戻されました。ああ、私たちは霊的な領域で認識できていないときに、大きな間違いを犯すと思います。何度神は、敵を食い止めておられたことでしょうか。その翼の陰で、強大な右の御手で私たちを守りながら。その手のひらの上で、敵から守られます。でも今、神は御手を引かれました。繰り返しますが、第二テサロニケ 2 章が思い浮かびます。

「その引き止める者が取り除かれる時」(IIテサロニケ 2:7)

引き止める者は、引き止めているという意味です。深い意味がありますね。引き止める者は何をするのでしょうか？ 引き止めるのです。引き止める者が引き止めているものとは？ 悪です。悪を抑え込むことです。しかし、引き止める者が取り除かれた途端、文字通り地獄が始まります。引き止める者が後ろに下がりが、取り除かれるからです。悪を引き止める者がいなくなります。敵は自由に行動できます。それが起こる時、…ああ、とにかく…取っておきます。いつになるかわかりませんが、取っておきます。

… (主は) あたりを焼き尽くす炎のように、ヤコブを焼かれた。

一哀歌 2:4一

主は (注目してください) “敵のようにして”…

主は民の敵のような存在にならざるを得なかったのです。主は敵ではあられませんが、敵のようになられます。

…弓を引き絞り、はむかう者のようにして、右の手でしっかり構え、いとしい者たちをみな虐殺した。…

…主は娘シオンの天幕に、火のように憤りを注がれた。

ところで、「He has/主はなさった」というのは、まだかなり出てきますが、ただ、「主はしなければならなかった」だけでなく、こういう意味でもあります。「主こそがそれを行っている」と。ああ、それはバビロン人ではなく、彼らは主の御手の道具です。主がこれをなさっています。なぜ主はこれをなさるのか？ しなければならぬのです。あなたは主に選択の余地を与えませんでした。主は 40 数年間、このような事態を避けるために、あらゆる手を尽くしてこられました。主はこれを喜ばれません。

実際には主の御心は嘆き、傷ついておられます。神の御心は砕かれています。神の預言者の心は、これから見るように、確かに砕かれています。ですから、私たちがこれを読む時、理解しなければならないのは、神がこれをなさっているということです。だから、彼ら、彼、彼女らを責めないでください。違います。神がこれを許されました。神がこれをなさっているのです。問題は、彼らを責めることではなく、なぜか、ということでもなく、もっとこうあるべきです。「神よ、ここであなたは私に何を見せられたいのですか？」「神よ、なぜですか？」「なぜ」ではありません。「何を」です。「この中で、あなたは私に何を教えられたいのですか？ ここから何を学ぶべきでしょうか？ 学ぶべき教訓は何でしょうか？ なぜなら、明らかにあなたがこれを許されたからです。これはあなたの御手により起こりました。あなたがこれを行われ、これを許されました。なぜですか？ そして、他の方法では学べなかったと思われる、私がここから学ぶべきことは何なのでしょう？」「今、あなたの注意を引けました。」すみませんが、さらに酷くなります。

…（主は）イスラエルを呑み込まれた。そのすべての宮殿を呑み込み、その要塞を破壊し、娘ユダにうめきと嘆きを増し加えられた。

—哀歌 2:6—

主は、園にするように、“ご自分の幕屋”を荒らし、…（覚えておいてください）…例祭の（ご自分の）場所を滅ぼされた。主はシオンで例祭と安息日を忘れさせ、激しい憤りをもって、王と祭司を退けられた。

—哀歌 2:7—

主は、その（ご自分の）祭壇を拒み、（ご自分の）聖所を退け、その宮殿の城壁を敵の手に引き渡された。例祭の日のように、彼らは主の宮で声をあげた。

少しだけお付き合いください。何が起こったか分かりますか。彼らは主の祭壇を、主の聖所を、主の幕屋を、主の例祭を、自分たちのものにしました。神が彼らに思い出させておられるようです。

「それはあなたの幕屋ではなく、あなたの祭壇ではない。それはあなたの教会ではない。わたしの教会です。彼らはわたしの民であり、わたしの聖所です。それはわたしの祭壇です。そして、あなたがしたことは、あなたは入ってきて、わたしを追い出しました。これはわたしのものです。あなたは乗っ取りました。」

ラオディキアのようですね？ そのはずです。なぜなら、イエスは外におられ、ご自分の教会に入るために、ノックしておられるからです。（黙示録 3:20）

イエスの教会です。ラオディキアに起こったことは、ユダに起こったことと同じでした。礼拝、例祭、祭壇、犠牲、幕屋、そして神殿は、すべて人々のものになっていたようです。いわば、説教はすべて自分についてでした。神についてではありません。礼拝賛美は、… これこそが、私が愛する賛美リーダーの姿です。礼拝賛美は、主のためではなく、人々のためでした。ああ、あの賛美の曲をご存じですね？

「すべてはあなた、イエスのために～♪」さあ、皆さんこの曲を知っていますね？ ユーモアたっぷりに描写するのをお許しください。皆さん、ポイントはお分かりですね。想像できますか？ 私は手を上げて歌っていて、汗のシミも見せながら。「あなたがすべてです～♪」ここで主はこう言われます。

「いいえ、違います。以前はそうでしたが、今はもう違います。わたしのためではなく、自分のためです。」「わお、どうしてそんなこと言えるの？」教会の礼拝に行ったら、まず何をしますか？「よし、どんな賛美か見てみよう。」おっと、ごめんなさい。どうやらあなたの基準には合わなかったようですね。しかも、牧師は説教をするために立ち上がってすらいない。その辺はどうなのでしょう？ なぜなら、牧師が前に出るのは、あなたのためではなく、主のため、主の栄光のためです。これは主の教会です。これは主の教会です。牧師がやってきて祭壇を変える権利はありません。これは言葉遊びで、実際はかなりいい感じですね。私たちは神の教会に対する編集権を持っていません。主の教会であり、主のためのものです。主を礼拝するため、主に栄光を捧げるためです。以前にこれをお話ししましたが、しばらくしていなかったの、今夜お話ししましょう。十分時間が経っていますから。実話です。これは本土でのことです。私はここからの例えは絶対に使いません。ご存じですよ？ いつも本土での経験を使います。ある人が礼拝後にやって来て、こう言います。

「あのね、どうだろう、今日の賛美は良くなかったよ。」お～…！そうでしたか？ おお、すみません。どうやら、私たちはあなたのために提供しているようです。というのは、すべて自分のことだからです。曲を作るべきかも。「すべては自分のため～♪ イエスのためではなく♪」

なぜなら、ほら、あなたは教会に来て、今、賛美が自分を満足させるものでなければならぬと考えてい

るからです。「まあ、どの曲も知らなかったよ。」じゃあ、覚えれば？ これはどうですか？

「ああ、あの賛美リーダーは、牧師よりひどいんですよ。彼はただ、涙の賛美リーダーで、涙の牧師がいて、涙の預言者が…」ー（笑）ー 私は大好きです。主を称えます。でも、時には感動して、聖霊があなたに臨まれます。正直なところ、この章をいつものように何度も読み返すのをやめなければならなかった理由のひとつは、涙が止まらなかったからです。つまり、文字通り泣いたんです。これはとても考えられないことです。何が起こったのか、これから見ていきます。まだ8節までしか読んでいないので、この辺で止めておきましょうか。まだ聖餐式もあって、急いで行いたくはありません。これがポイントです。それは主の教会です。主の祭壇です。礼拝は主のためであり、私たちのためではありません。主を礼拝します。主のためです。私たちのためにしてはいけません。牧師は、人々を中心にした、人々が聞きたい教えを仕立てているわけではありません。

一哀歌 2:8ー

主は、娘シオンの城壁を打ち壊そうと決め、測り縄でこれを測り、滅ぼすことから手を引かれなかった。壘と城壁は悲しみ嘆き、ともに崩れ落ちた。

これは、神殿の建設を測ったように、破壊を測った正確さを語っています。この破壊の目的、17節に入ると、目的が成就することがわかります。

一哀歌 2:9ー

彼女の城門は地に沈み込み、主はそのかんぬきを打ち壊して砕かれた。その王も首長たちも異邦の民の中にあり、もはや律法はなく、預言者たちも、主からの幻を見出さなかった。

一哀歌 2:10ー

娘シオンの長老たちは、地に座して黙し、頭にちりをかぶり、身に荒布をまとった。エルサレムのおとめたちは、頭を地に付くほど垂れた。

11節のエレミヤのことばを聞いてください。彼が親しみを込めて「涙の預言者」と呼ばれる理由は、ここにあります。

一哀歌 2:11ー

私の目は涙でかすみ、…

「涙が止まりません。」

…はらわたはかき回され、肝は地に注ぎ出された。…

エレミヤは体調を崩すほどの絶望感の中で苦しんでいます。こんなに傷つき、傷つけられたことがありますか？ 体調を崩すほどの苦痛を味うほどに。繰り返しになりますが、露骨な言い方をお許しください、エレミヤは嘔吐しています。精神的な苦痛で体調を崩しています。さて、この涙の尊い預言者が、なぜこのような状況に至ったのでしょうか。なぜでしょうか？なぜなら…

…私の民の娘の破滅のために。幼子や乳飲み子が都の広場で衰え果てている。

一哀歌 2:12ー

彼らは母親に言い続ける。穀物とぶどう酒はどこにあるのかと。町の広場で負傷した者のように衰え果てたときに、母親の懷で息絶えそうなときに。

餓死しそうです。これが涙の預言者エレミヤをそのような状態に追い込んでしまいました。精神的な苦痛が大きく、肉体的にも影響を受けています。考えてみてください。子どもたちに罪はありません。彼らは親がしたことのために不必要に苦しんでいます。親は子どもたちに無用の苦しみや痛みを与えてしま

いました。そして、その結果、彼らは苦しむのです。その結果、彼らは死んでいきます。死はおろか、苦しんでいる子どもや乳幼児を見ることほど、心が痛むことはないと言えるでしょう。これは考えられないほどの痛みです。エレミヤは聖霊によって描写しています。想像できますか？ つまり、聞いてください。これは… これをどう言えばいいでしょう… これが起こりました。いいですか？ これは起こったのです。エレミヤは目撃していて… エレミヤの心の痛みが、さらに深く、限りなく大きくなるのを、想像できますか？ エレミヤは彼らに警告しました。40 数年間も。そして今、彼はそこに座り、これを眺めています。想像もつかないくらいです。あえて言うなら、あなたと同じように、私も体調を崩してしまうかもしれません。涙が止まらないでしょう。子どもたちの人生に与える影響について、少しだけお話ししましょうか。

現代では…もう一度、切り離さないように気を付けましょう。簡単にそうしてしまいます、緊張感がなくなるからです。いいえ、緊張感を除くことはできません。これはインパクトのあるものでなければならず、強く印象付ける必要があります。苦しむのは子どもたちです。苦しむ子どもたち。昔は、子どものために夫婦が離婚しない時代もありました。今は違います。子どもたちは犠牲者です。彼らは何もしていないのに、このような窮地に追い込まれました。彼らに降りかかりました。親、大人がしたことのゆえに。それが、ここでのメッセージだと思います。これは実に心が痛むことです。このせいで、エレミヤは体調を崩してしまいます。彼はこの子ども達を見るに耐えられません。彼らには何の責任もありません。餓死しそうなのです。この描写、「都の広場で衰え果てている」歩くのもままならないほど弱っている子どもの姿を想像できますか？ 母親の腕の中に幼子がいて、その命が息絶える様子を思い浮かべてください。死にかけています。母親の腕の中で、息絶えようとしています。私たちは自分の腕の中で、娘を亡くしました。それはあなたに何かをもたらすはずです。彼らは子どもで、赤ん坊です。彼らの責任ではありません。

一哀歌 2:13-

娘エルサレムよ。あなたのことをどう証言し、何になぞらえよう。おとめ、娘シオンよ。あなたを何に比べて、あなたを慰めよう。実に、あなたの傷は海のように大きい。だれがあなたを癒すことができよう。

そして、14 節です。

一哀歌 2:14-

あなたの預言者たちは、あなたについて、むなしい、ごまかしの幻を見た。あなたの咎を”暴いて”、あなたを元どおりにしようとはせず…

訳すと、彼らはそれを覆い隠しました。「隠蔽」と言いますよね？ ええ、それは暴かれます。「いや、彼らはそんなことはしませんよ。」彼らは偽りの説教をし、欺きの預言をしているのであって、あなたの咎を暴きませんでした。具体的な内容がこれです。

…あなたを元どおりにしようとはせず、あなたについて、むなしい宣告と、惑わすことばの幻（妄想）を見た。

言い換えると、これはシオンを擬人化したような懇願の言葉です。

「なんと言えばいいのかわからない。どう慰めたらいいのかわからない。どう慰めればよいのか。あなたの破滅は、海のように遠くまで広がっている。誰があなたを癒すことができるのか？ あなたのために何ができるのか？ ユダよ、あなたの預言者は今どこにいるのか？ こんなことは起こらないと、あなたに言った者をあなたは知っている。彼らはあなたを欺き、あなたは彼らの嘘を信じた。彼らの嘘を信じたかったからだ。より友好的だったからだ。より口当たりが良かったからだ。」

「ええ、そう、日曜日の朝は良かったです。入ると、この人はあなたをなんだか気分良くさせてくれます。あのウィンドワード側にいるもう一人の男が毎週行っているようなことは、この人はしません。彼はそんなこと言いませんよ。ねえ、神はあなたを愛しています。すべて大丈夫。大丈夫です。私たちは大丈夫です。」

いいえ、大丈夫じゃありません！ いいえ、暴いてください。真理を語ってください。偽りではなく。正直になってください。嘘をついてはいけません。欺いてはいけません。そのような預言は、偽りです。あなたは偽預言者です。そして、あなたはあなたの嘘を信じた神の民を惑わし、欺いてきました。

さて、冒頭で、「最後まで」と具体的な話をしました。というのも、バビロンのカルデア軍がユダを包囲したのは、1年半の間に3回あったことが分かっているからです。その3回目には、ユダの残りの人々を捕虜にし、一部を残して、すべてを破壊しました。それで終わりです。エレミヤの預言、そのすべてが100%の精度で実現しました。最後まで、“最後の日”、ユダの最後の日まで、彼らはまだこう言っていました。

「いやいや…！ これが最後ではない。そんなこと起こらないよ。」「あなたを元どおりにしようとはせず」これはユダの最期を物語っています。つまり、最後の瞬間まで、この醜い偽預言者たちは…、すみませんが、醜い、偽預言者たちです。ところで、彼らはこんにちも健在です。

「いやいや、裁きは来ないよ。リバイバルが来るんだ！ 私たちには”大いなる覚醒”がやって来る！」
いいえ、違います！ それは偽りです！ 惑わしです！ 違います、それは…ねえ、リバイバルを望まない人はいませんよね？ それに対しての反論は絶対にしないでください。

「お～、あなたは聖霊を消しています！」いいえ、違います！ 私は霊を試しています。霊を見極めていきます。私の聖書には大いなる覚醒はありません。ちなみに、ニューエイジでは、あると言っています。あ～…やっしまいました。またそっちにいつてしまったようです。賜物なんです。賜物です。最後の日、最後の瞬間でさえも、「そんなことないよ～！」日曜日ですが、こう言ったら、皆さん来るしかないでしょう。というのも、これを言うてからでないかわからないからです。日曜日の第二ペテロの手紙の説教のタイトルが何だと思いませんか？

「裁きがやって来る」ええ、それが説教です。本当に人気のある話題ですよ？

「裁きがやって来る！」非常に冷やかに、「ああ、あんたもその一人なのか」いいえ、聖霊によってペテロが語っています。彼らは意図的にそれを忘れて、気づかないようにします。神は洪水で世界を滅ぼし、裁かれました。神は裁かれます。裁きはやって来ます。裁きの日、裁きの日が！ 叫んでいるのは分かっています！ — (笑) — あ～！これも賜物なんです。とにかく、申し訳ありません。いや、本当は申し訳なく思っていますが。いいえ、裁きの日は、不敬虔な者を滅ぼすために留められています。

ペテロは…私は日曜日の説教を今夜しています。追加料金なしで。ペテロは神がなされたと言っています。当時は水によって。もう一度なさいますが、次は水によってではなく火によってです。それが起こります。もしエレミヤが今生きていたら、何をしているかわかりますか？ 来たるべき裁きについて語るはずで。そして、ポッドキャストで配信している他の人たちは、「ノー！」と言うでしょう。

「リバイバルが起こります。大いなる覚醒です。リラックスしてください。あの男がこう言っているのは知っています。『裁きがやって来る。今、いつでも携挙は起こりえる』と。でもね、ずっと言われ続けているんですよ。」先週の日曜日にお話ししたことです。先週の日曜日の説教を今夜してもいいですか？

それこそが、彼らがやっていたことです。彼らは基本的に人々に語りかけ、人々を欺いていたのです。

「いや、そうじゃない。これは終わりではない。神の裁きは来ない。神の御怒りは来ない。バビロン人に捕囚されることはない。そんなこと起こらない。リラックスして。気楽にいきましょう。あの男は登録解除してください。」— (笑) —

では、これについてはもう十分ですね。

—哀歌 2:15—

道行く人はみな、あなたに向かって手を打ち鳴らし、…

これは拍手ではありません。

…娘エルサレムを嘲って頭を振り、「これが、美の極み、全地の喜びと言われた都か」と言う。

ええ、かつてはそうでした。

—哀歌 2:16—

あなたの敵はみな、あなたに向かって大きく口を開け、口笛を吹き、齒をむき出しにしていう。「われわれがこれを呑み込んだ。(いいえ、違います) ああ、これこそ待ち望んでいた日。(われわれは) これに巡り会い、じかに見た」と。

彼らが神の民にこのようなことが起こることを望んでいたという印象を受けませんか？ そこで主は、預言者エレミヤを通して、すぐにこう言われます。17 節。

—哀歌 2:17—

主は計画したことを行い、昔から命じていた自らのことばを成し遂げられた。(主は) 滅ぼして、容赦せず、(主は) あなたのことで敵を喜ばせ、(主は) 逆らう者の角を高く上げられた。

—哀歌 2:18—

彼らは主にむかって心の底から叫んだ。娘シオンの城壁よ、昼も夜も、川のように涙を流せ。自分に休みを与えるな。あなたの腫を休ませてはならない。

—哀歌 2:19—

夜、見張りの始まりに、立って大声で叫べ。あなたの心を主の前に、水のように注ぎ出せ。あなたの幼子たちのいのちのために、主に向かって両手を上げよ。彼らは街頭のいたるところで、飢えのために衰えきっている。

—哀歌 2:20—

「主よ、よくご覧ください。だれにこのような仕打ちをなさったのかを。女たちが、(これは辛いです) 女たちが、自分の胎の実を、養い育てた幼子を食べてよいのでしょうか。祭司や預言者が、主の聖所で虐殺されてよいのでしょうか。

待ってください。何て？ そんなことしたのですか？ これは単なる詩的な誇張表現ですか？ いいえ、違います。第二列王記 6 章に共食いのことが書かれています。それほどに、ひどい状態でした。母親が自分の子どもを実際に食べてしまうような状態です。

—哀歌 2:21—

幼い者も年寄りも道端で地に横たわり、若い女たちも若い男たちも剣に倒れました。あなたは御怒りの日に虐殺し、屠り、容赦されませんでした。

—哀歌 2:22—

あなたは、例祭の日のように、私の恐怖を、四方から呼び集めました。そのため主の御怒りの日には、

生き残る者も逃れる者もいませんでした。私が養い育てた者たちを、私の敵は滅ぼし尽くしました。」

さて、冒頭で、この章を進めるにあたり、私も含め、皆さんにお願いしましたが、… 神さま、感謝します。もう終わりです。神はこれをやらざるを得ないというレンズを通して見ることで、これは不当であるという誤解がなくなるようお願いしました。選択の余地はありませんでした。神はこれをしなければなりません。これをしなければならなかったのです。神はこんなことは望んでおられませんでした。民は選択しました。繰り返しますが、神は私たちに従順を強要されません。それは愛ではありません。手短に、補足的にお話ししますが、これはルシファーが天から追い出されたとき、なぜ神はルシファーを滅ぼさなかったのか、という古くからの疑問に答えるものです。私なら絶対そうしたでしょう。私なら、「おお、そうですか。私の上の最も高いところに、自分の王座を設けたいのか？ 自分を高めて、私より上に立ちたいのですね。」

私だったら…もし私が神だったら、そうじゃなくて良かったのですが、私なら、ザックリと。「他にだれかいますか？」では、なぜ神はそうされなかったのでしょうか？ なぜなら、考えてみてください。もしそうしたなら、天の全軍勢は、こう話し始めるでしょう。

「ルシファーに何が起こったか聞いたか？」「まあ、ここは慎重に行動したほうがいい。」「神はその場で、彼に火をつけたんだ。」すると突然、天の全軍勢が、全能の神を礼拝し、仕えるのは、愛から出たものではありません。自由意志で、選択によって仕えていたのが、今、彼らは同じような運命に見舞われることを恐れて、強制的にそれを行うのです。ですからルシファーは投げ落とされ、御使いの3分の1を引き連れて、罪はその運命をたどらざるを得ませんでした。(エデンの)園でも、同じ原理です。私なら善悪の知識の木を園の真ん中に置きません。言ってみただけです。いいですか？ エデンの園で、わたしは完全な人、アダムを造りました。アダムから、エバを造りました。人が一人でいるのは良くありません。彼のために助け手を造り、二人は幸せに暮らします。しかし、なぜ神は園の真ん中に善悪の知識の木を置き、そこから食べることを禁じられたのでしょうか。

選択、選択です。そうでなければ、選択の余地はありません。そこにその木を置かなければ、私たちは問題ありません。

「わたしはその木を置きます。あなたには選択肢があります。わたしに反抗し、わたしを拒絶することを選ぶのか、それとも、わたしに仕えることを選ぶのか、それはあなたの選択です。わたしはあなたに自由意志を与えています。そうしなければならないという理由で、わたしに仕え、わたしを愛することを望まないからです。」

「もしそうしなければ、わたしがルシファーにしたように、あなたを殺す。だから、わたしを愛しなさい。」と。

「分かりました、あなたを愛します。あなたを愛します、神さま…」

そうですね？ 夫婦関係でも考えてみてください。もし男があなた一人だけだったら、彼女には選択肢はありません。あなたは彼女に結婚を申し込みます。彼女は何と言うでしょう？

「そうするしかありません。ここに選択肢はありません。あなたしかいないんです。」

気にしないでください、これは恐ろしい例えでした。二度と使うべきではありませんね。ポイントは分かりますね。神は、私たちが神を愛さない限り、私たちが神に仕えることを望まれません。それは私たちの選択でなければなりません。では、これでこの章を理解してもらえたでしょうか？ なぜ私たちの聖書に、このような章があるのか。同じようなものがあと3章もあります。一つはこれよりももっと酷いで

す。何章かは言いませんので、お越しくください。それが理由です。冒頭の方法で締めくくり、聖餐式を共に行います。これに関して最後の一つです。全ては彼らが欺かれ、偽りを信じたかったからです。彼らは拒絶し…、彼らの選択です。思い出してください、彼らの選択です。彼らは選びました。繰り返しますが、言い訳は出来ません。それは言い訳ではありません、説明です。彼らは選択しました。真理を拒絶し、嘘を信じました。そして、神はこうしなければなりませんでした。ここでエレミヤです。「ああ、耳を傾けてほしかった。」かわいそうなエレミヤ。早く栄光の地で会いたいです。なんという人でしょう。なんという神の人でしょう。なんと愛のある人でしょう。こんなにも柔らかく、優しい心を持った、愛にあふれた神の人だと私は想像します。純粹にこの民を愛した人。彼らによって、どれほど傷ついたでしょう。そして今、エレミヤはその場で目撃し、これを目にしています。きっと神はこの預言者に、言葉にならないほどの栄光を用意しておられたのでしょうか。どうか、心に留めてください。切り離さないようにしましょう。これは現代にも当てはまります。ええ、私は聞きたくないし、教えたくありません。何が起こるのか？ しかし、それは真実です。それは魅惑的で誘惑的で希望に満ちています。偽りの希望です。これらの偽預言者たちは、「さあ、私たちは大丈夫です。」どうか惑わされないでください。どうか嘘を信じないでください。これほどまでに聖餐式の準備が整ったことはないくらいです。イエスさま、感謝します。イエスが、「あなたがこれをするとき、わたしを覚えて行いなさい」と言われたことが嬉しくないですか？ お～…ルカの福音書 22 章 14 節からです。ルカが聖霊によって書いています。

—ルカ 22:14—

その時刻が来て、イエスは席に着かれ、(12 人の) 使徒たちも一緒に座った。

—ルカ 22:15—

イエスは彼らに言われた。「わたしは、苦しみを受ける前に、あなたがたと一緒にこの過越の食事をする

—ルカ 22:16—

あなたがたに言います。過越が神の国において成就するまで、わたしが過越の食事をする

—ルカ 22:17—

そしてイエスは杯を取り、感謝の祈りをささげてから言われた。「これを取り、互いの間で分けて飲みなさい。

—ルカ 22:18—

あなたがたに言います。(これは二度目です) 今から神の国が来る時まで、わたしがぶどうの実からできた物を飲むことは、決してありません。」

—ルカ 22:19—

それからパンを取り、感謝の祈りをささげた後これを裂き、弟子たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられる、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。

ここに居られる方は、パッケージの上部を剥がし、パンを持って少しお待ちください。これが、今夜、私たちが祝い、記念している新しい契約です。私たちは古い契約の記述を読み終えたところです。そして、私たちが今夜ここでやっているのは、新しい契約を祝うことです。新しい契約とは何でしょうか？ 私たちの罪を覆う(コファル)のではありません。それは、罪の赦し、取り除くことです。それが新しい契約です。いいですか、もうすべてが完了しました。古い契約では、新しい契約の約束、救い主を待ち望む

必要がありました。信仰によって義と認められ、そのようにして人々は救われました。ですから今、私たちはここで新しい契約を迎え、私たちの代わりに私たちのために砕かれたイエスの血と御体において、新しい契約を祝うのです。すべて支払われました。完了しました。追加できるものは何もありません。奪えるものは何もありません。完了しました。イエスは私たちに、これを行うために聖餐式を与えられました。私たちが覚えているように。なぜなら、私たちは忘れるからです。イエスは私たちに思い起こすことを望んでおられます。このことを何度も思い起こしてほしいと願っておられます。月1回、週1回、毎日やらなければいけないということではありません。違います。「何度でも、わたしのことを覚えておくために、これを行いなさい。」「わたしがあなたのためにしたこと、あなたのために死んだこと、あなたのために全額を支払い、あなたを購入したことを思い出さなさい。わたしがあなたを贖い、あなたを救った代価を思い出さなさい。あなたは救われています。」

あなたが新しく生まれ、イエス・キリストの救いの知識を得たとき、そのときからあなたの永遠の命が始まったということを理解していますか？ 長い間、主とともに歩んできた私たちの中には、それを忘れ、そのような生き方をしない人もいます。これが、私たちの生活を一変させることになるはずです。そのことを理解した上で、そのように生きるのであれば、私たちが思い出ささえすれば、生き方は変わってくるはずです。聖餐式に本当に感謝しています。このお祝いができることに本当に感謝しています。私たちはキリストの御体が砕かれた象徴を手にしてあります。骨ではなく、体です。血が流されました。私たちへの愛ゆえに支払われた代価を思い起こさせるものです。神は私たちを救うために、私たちの代わりに死に、私たちの罪の負債を完全に支払われるひとり子を与えられたほどに、この世を愛しておられます。それが今夜、思い起こすことです。いただく前に、少しだけお話ししたいと思います。敵は私たちを叩きのめするのが得意です。私たちの罪と、その罪悪感で。敵は私たちの罪の罪悪感が私たちを支配することを望んでいるからです。(ローマ 6:14)

なぜなら、私たちが罪の非難と罪の重さに押しつぶされている限り、敵は私たちを捕らえることができるからです。そして、聖餐式に来ると、今ここで終わります。

「いや、いや、いや、、、私は赦されている。それは支払われた。覚えていますか？」

キリスト・イエスにある者が、罪に定められることは決してありません。(ローマ 8:1)

私たちは、十字架のもとにたどり着くまでの間、いかなる罪悪感も、いかなる罪の定めも受ける必要はありません。十字架のもとに行ってください。罪が支払われたところです。そこに置いて来て下さい。持ち帰らないで。わかりますね？「お～、イエスさま、感謝します」と。そして、すぐに取り戻してしまいます。いや、実はこういうことです。私はこう確信しています。自分のことを話します。敵はこう言います。

「おい、何か忘れてないか？ ほら、これはお前の罪だ。」「ああ、そうだ...」「ほら、持って。カバンに入れてあげるよ。」敵はあなたに背負い続けさせたいからです。いいえ、

東が西から遠く離れているように、取り除かれています。神はもう覚えておられません。(詩編 103:12)

「ええ、でもこれは本当に酷い。」

私の罪が緋のようであっても、主はそれを雪のように白くされました。(イザヤ 1:18)

それが今夜お祝いすることです。共にいただきます。主よ、感謝します。私たちのために砕かれたあなたの御体に感謝します。過越の小羊に関する過越の預言の成就のために。あなたが私たちの過越しの小羊です。私たちの罪のために一度きりの犠牲とされました。主よ、十分に感謝しきれません。主よ、今夜聖餐式を行うにあたり、この教会にいる私たち、あるいはオンラインの方の中で、これ以上、

罪悪感を抱く者が一人もいないように祈ります。あなたが私たちのためにしてくださったことのゆえに。主よ、感謝します。この本当に必要なことを思い起こさせてくださり感謝します。ルカは続けて書いています。

—ルカ 22:20—

食事の後、(イエスは) 杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による、新しい契約です。」

ここに居られる方は、残りのパッケージを剥がし、少しお待ちください。

血を流すことなく、罪の赦し、罪を取り除くことはできません。(ヘブル 9:22)

イエスはこれが待ち望んでいた新しい契約の杯だと言っておられます。古い契約は、新しい契約が明らかにするものを隠しています。これは、新しい契約で救い主が現れ、あなたや私のためにその血が一度だけ流されるという、待ち望んでいた約束が成就したものです。イエスが、「これはわたしの血による新しい契約の杯です」と言われた時、血の中に力があると言っておられます。「わたしの血は、あなたの罪のために、あなたの代わりに流されなければなりません。そのことを覚えておいてください。敵はあなたにそれを忘れさせ、あなたを罪の非難と罪悪感のもとに押し潰し続けることができるからです。赦されていることを思い出してほしいのです。あなたの罪のためにわたしの血が流されたこと、新しい契約の血に力があることを思い出してほしいのです。だから、あなたのために流されたわたしの血の象徴であるこの杯を飲むたびに、あなたは赦されたことを思い出してほしいのです。」ピリオド、以上です。イエスが「完了した、もし...」と言われなかったことは嬉しくないですか？「完了した、しかし...」「完了した、でも...」いいえ、「完了した。」ピリオド。決定事項です。別の言語に触れようと思ったのですが、やめました。完了しました。終わりました。もう終わりです。共にいただきましょう。終わりましたら、お立ちください。カポノ、上がって来て下さい。

ああ、主よ、もう一度、私たちは、あなたへの感謝の気持ちを十分に表現することはできません。私たちがあなたのことを思い出すために、このようなものを与えてくださいました。しかし、私たちの救い、私たちの贖罪、あなたが支払われた代価、それはあなたのすべてを犠牲にし、死においてあなたの命を犠牲にされました。死を打ち破る復活に感謝します。新しい契約に感謝します。あなたの救いに感謝します。主よ、私たちは思い起し、あなたに感謝します。主よ、私たちが今夜別々の道を行くとき、あなたが今夜私たちの中でなされたことを持ち帰ることを祈ります。どうか、私たちがここに置き去りにすることがありませんように。今、私たちに必要なのは、聖霊がこれを受け取られ、これを用いて私たちの人生にあなたの望むことをしてくださることです。主よ、感謝します。イエスの御名によって、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7